

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム さくら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400426		
法人名	社会福祉法人 憲幸会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・健康で穏やかに安心して暮らせる居場所の提供 ・入居者、入居者家族との信頼関係作り ・感染症対策の徹底

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内中心部から若干離れた西部地域にあり近隣には民家が点在し、水沢公園や胆沢桜街道など桜の名所にドライブで出かけられるエリアにある。北側には日帰り温泉施設さくらの湯があり、バラ園見学やピザ窯でおやつを購入も出来、日常的な散歩コースとして利用している。各居室には個室トイレと洗面台がありプライベート空間が確保されている。また、男性利用者が多く、共有のくつろぎスペースに加え読書コーナーも設置されている。看取り対応はしていないものの、協力医療機関と連携し重度化しても可能な限りの支援をし、止む無く退居される利用者には「思い出アルバム」を作成し喜ばれている。また訪問歯科診療を全員が利用し、口腔ケアの面でも安心感がある。職員の提案で導入した通信カラオケには、各種体操や昭和レトロの回想等の機能が充実され、チルド方式による食事提供に切り替えたことと相俟って、利用者のケアの充実に努められることが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年1月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を壁に掲示して常に目視できるようにしている。また、毎朝10時に夜勤者と日勤者のミーティングの際に「一人一人に寄り添い、共に楽しく笑顔になれる生活」を職員全員で唱和している	事業所の理念「ひとり一人に寄り添い、共に楽しく笑顔になれる生活」について、日勤者、夜勤者による朝10時のミーティング時に唱和し、確認するようにしている。職員は、利用者一人一人に応じたケアの基本として理念を共有できている。事業所のリーフレットにも掲載し、利用者支援のPRの一助としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で奥州市に多数の感染者が発生、またクラスターも発生しているため、昨年以上に交流が出来ていない	現在入居されている利用者は、近隣地域からの利用はなく、また、事業所が法人本部裏側に位置しているためか、日常のご近所の方が立ち寄ることは少ない。コロナ禍前は、夏祭りやサンマ祭りなどの事業所行事に地域の方の参加もあったが、最近は行事開催も出来ていない。今後は、近隣に介護系の事業所がないことから、地域の相談拠点としての利用や、最近事業所隣に建った住宅住民とのご近所付き合いが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で奥州市に多数の感染者が発生、またクラスターも発生しているため、昨年以上に交流が出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で奥州市に多数の感染者が発生、またクラスターも発生しているため、文書での報告・意見を求める形となった	運営推進会議は、佐倉河地区民生委員(3名)、駐在所、市長寿社会課職員、行政区長、家族、地域住民で構成されている。今年度は書面での開催として、返信用はがきを送付し、委員から意見をいただくようにしている。当面書面開催が続くとしても、利用状況報告と併せ運営面での困りごと等の課題改善に向け、運営推進会議を活用していきたいしている。	運営推進委員個々の立場からの視点での意見、提案、アイデア等積極的に活用し、事業所の課題解決や改善に反映されるよう定期的な会議の運営を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から当法人の運営・活動についてご指導ご鞭撻を頂戴しております	市長寿社会課職員に運営推進会議の委員を依頼している。管理者は介護認定の変更手続きや転倒や誤嚥等の事故報告の際、市役所窓口に出向き、担当者とは顔の見える関係が出来ている。例年2名の介護相談員が来所していたが、今年度は来所していない。また事業所で空きが出た際には、FAXにて情報提供書を提出している。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年の法人内研修以降、コロナ禍で外部研修に職員の派遣はなかった 介護抵抗の入所者は現在いない	今年度は外部講師の依頼はないが、管理者が企画し、業務の合間を利用し、職員はインターネットによる研修を受講している。転倒防止や徘徊による事故防止を目的に、家族の了解のもと見守りカメラ、離床センサーを使用している。スピーチロックは、利用者が同じ訴えを繰り返す様な時に起きやすく、管理者がその都度注意しているが、職員相互の注意喚起までには至っていない。精神疾患がある利用者が状態悪化した際にも、身体拘束は避け、主治医へ相談したり、複数の職員で対応するなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング・職員会議・担当者会議等で虐待防止については周知徹底している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の入居者はいないが成年後見をしている入居者がおり、成年後見制度について管理者が資料を閲覧し職員にレクチャーした		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時に不安や疑問点があるかお尋ねし、疑問があれば説明している。契約書で再度十分に説明しご理解・ご了承を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にて明示の他、日々の面会(玄関先のみ)病院受診時・物品補充の連絡時等様々な機会で見聞きを聞く機会を設けている	ご家族には、日用品、衣類等の補充を依頼し、来所された都度ご意見等聞いたり、外出した際のスナップ写真等を見ていただいている。コロナ禍ではあるが、玄関先での面会者であっても、また遠方からの面会者であっても、全て抗原検査を実施した上での面会としている。テラス側の居室利用者は施設内を bypass せず、直接居室のサッシを開け、面会できるようにしている。退居される方には事業所内での生活の様子をアルバムにしてお渡しし、ご家族からは非常に感謝されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、不定期開催の職員会議の他、日常的に意見や提案、要望を聞く機会を設け反映させている。	職員からの要望が叶い、使用している通信カラオケに歌以外の踊りやリラクゼーション、口腔体操、全身運動、リズム体操、それに懐かしのメロディ、東京はとバスガイド案内や白黒の昭和のレトロな風景等の機能を充実できた。それにより利用者の活動のメニューが広がり、職員の負担軽減にも繋がっている。職員は勤務経験と希望に応じ、専門資格の取得にチャレンジしている。職員間のコミュニケーションは良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の状況の把握に努め、職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修がコロナ禍で参加できず、その中でオンライン研修や内部研修の参加を支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で残念ながら相互訪問や勉強会は見合わせている		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人の成育歴・既往症・現況等を把握し、入居前に事前に本人と面談し、困っている事・不安・要望等を聞き、安心して入居してもらえるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前にご家族とも面談し、困っている事・不安・要望等を聞き、安心して入居を任せてもらえるように努めている、また病院からの退院の際には担当看護師(医師)医療連携室等医療関係者と退院カンファレンスを行いラポールを構築できるように努めている		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム さくら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人の成育歴・既往症・ADL・現況等を元にアセスメント、本人・家族・居宅ケアマネ・退院の場合は担当看護師・医療連携室と情報共有した上で担当者会議を開催し本人と家族が必要とするケアサービスが出来る体制を整えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の時は職員も同じテーブルに座り一緒に食事している。また食器拭きやテーブル拭き洗濯畳み等職員と一緒に作業することで連帯感も生まれている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	備品の不足時・病院通院時・急変時は様子を伝達し情報共有、家族に連絡をとり来てもらっている。定期のさくら通信・遠方の家族にはタブレットでのネット面会を活用し絆を切れない様な工夫をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出はできていない (実際記憶がなく、馴染みの人が訪ねてきても本人が覚えていない)	面会制限が続き、入居期間が長くなるにつれ、近親者の記憶も薄れてきている利用者が殆どであるが、それでも盆正月や誕生日に自宅に連れ帰っている息子さんもいる。週1回訪問してくれる看護師や月1回交代で来所する訪問診療医、隔月で利用している理美容師等が馴染みの人となっている。家族でLINE通信が可能な方とは、病状の変化などを写真や動画で送り、受診の依頼や近況報告等に活用している。また、季節毎に「さくら通信」を発行し家族等にお届けしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・カラオケ・トランプ・ドライブ等を実施しているが、認知症プラス精神疾患の方もいて個人個人のマイペースとなり、時には不穏になり共に関わり合うのは難しい		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も数か月はその後の様子を電話で聞いたり、家族さんの近況を聞いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	成育歴・既往症・現況を把握した上で、本人・ご家族の希望や意向の把握に努めている。ただ、思いを意思表示できる入居者は半数ほどまた精神疾患を持っている入居者も多くそれぞれ配慮が必要	重度の認知症で「ねしょねしょ、なしなし」しか喋れない利用者でも、午後の昼寝から目覚めた際には、大声で起こしてほしいというサインを出している。意思確認には、「はい、いいえ」で答えられる簡単な問いかけや実物を見せながら確認したり、体の動き等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時の家族からの聞き取り・フェイスシート・主治医の意見書・退院情報提供票をもらいこれまでの暮らし方や環境・病歴等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングでの申し送り・業務日報・個々のケース記録等で現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規利用者には入居前に管理者(介護支援専門員)が本人・家族に面談しアセスメントを行い、入居時の介護計画書を作成している 毎日のミーティングでの申し送り・業務日報・個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努め、必要に応じて居宅ケアマネ・病院の医療相談室とも連携しながら、家族の意向・要望を聞き介護計画書に反映している	新規入居を希望される方で移動に問題がない場合は、ホームの体験、下見を兼ね来所いただいている。入居当初は、暫定の計画を策定し、1ヵ月～1ヵ月半ほどで生活に慣れてきたところでモニタリングし、本計画として概ね1年間の計画として作成した上で、3ヵ月程度で見直しを行っている。この間に排泄補助用品や、移動等の福祉用具の使用に変化があった場合は、職員の意見も聴きながら計画を変更している。家族には私物を持参された際等に計画を説明し、了承をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の食事量・水分量・排泄・皮膚状態・バイタル・行動・言動・健康観察を記録し、職員間で情報共有し気づきがあれば逐一報告し周知している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティングでの申し送り・業務日報・個々のケース記録等でモニタリングし現状の把握に努めているが、1日1日が精一杯で、ニーズに対応したサービスの多様化にはなかなか取り組めていない		

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源との協働は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関があり、毎月訪問診療に来てもらっている。また急変の場合は同医療機関に連絡し指示を仰いでいる。救急の場合も対応してもらえるので本人・家族にとって心強い	市内や一関市にある精神病院通院の利用者には、家族が対応している。家族の希望で主治医を変更する場合には、紹介状をいただき協力医療機関に変更している。訪問診療、訪問歯科もあり、歯科治療は全員終了するなどスムーズに対応できており、家族からも感謝されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し1週間の入居者の健康状態を報告し、週1回訪問看護に来てもらい、健康状態の観察と適宜指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医療機関との情報交換や相談は良好な関係を築けている また、提携以外でも県立病院・市立病院・医療法人の各医療連携室とも良好な関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居中に重篤な状況になった場合は、速やかに提携医療機関の主治医・家族に連絡し病院を受診してもらう。その際には主治医から家族に病名や病状の説明をしてもらうと共に、施設で出来る事、出来ない事を十分説明し、入院が必要な場合は入院の準備をしメンタル面の支援も出来るだけ行うように努めている	現在、看取りは行っていない。事業所には特殊浴槽の設備がないため、車椅子利用や一般浴槽での入浴が困難な場合には、他の施設の利用を勧めている。ただし介護度での一律な対応ではなく、利用者の状況をみながら事業所で出来る範囲での対応を行っている。介護度4の常時オムツ使用の利用者は、シャワー浴をほぼ毎日行い、家族と相談の上、事業所で対応できるうちは継続利用の方向で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、マニュアルを作成しており、オンラインの研修も受けている		

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や地域の区長さん、消防署はコロナ禍で参加出来ず施設内入居者・職員で火災訓練を実施した	コロナ禍のため、今年も消防署の立会や地域住民の参加を見合わせ、職員と利用者で火災想定訓練を行った。夜間想定訓練は実施できていない。過去に、大雨警報により法人系列事業所に避難したこともあり、管理者は、職員が1人体制になる夜間帯の非常時や水害時の避難、駆け付け体制に加え、敷地内事業所間の連携や地域の協力体制、備品の確認や停電時の対応、避難路の整備等の様々な課題があることを認識しているが、事業所全体での共有には至っていない。	夜間を想定した訓練は必須であり、訓練を通じて把握した地域の協力や職員招集や災害に備えた発電機、暖房機器等の整備状況を定期的に確認するなど、事業継続を意識した取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	統合失調症の既往症の入居者が数名、精神病院通院中の入居者が数名います。1日の中で不穏と正常を繰り返かえていて、他入居への影響もありそれぞれ一人一人の対応に最新の注意を払っています。	利用者の尊厳、プライバシー保護などを謳った法人の倫理綱領を定め、職員には就労時に誓約書への署名を求めている。各居室には個室トイレが設置、利用されており、プライバシーが保たれている。男性入居者が多く、女性利用者の中には、居室入口に内鍵を使用している方もいる。入浴介助は、女性利用者には女性の職員が対応している。また、高学歴、高収入の利用者が多く、プライドも高く相応の対応が必要としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に希望や思いを聞く体制になっています。無理じいはず、入居者の自己決定を優先するように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援するように心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪で定期的に散髪、洋服は本人希望と職員の見立てでご家族に伝え持って来てもらったり、着替えの際は本人に選んでもらったり職員がアドバイスしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食卓を囲み楽しく食事している。また片付けは一緒に行い、洗った食器拭き、テーブル拭きを手伝ってもらっている	昨年5月からチルド食品を導入したが、毎週月曜日の昼食は、職員による手作りランチを提供している。お正月には、調理師資格のある職員が腕によりかけたお節風松花堂弁当等を提供する等、行事食にも工夫している。利用者による調理の準備は難しくなっているが、テーブル拭き、茶碗拭きなどの手伝い、プランターへの水遣りなど行っている。おやつにタコ焼き、お好み焼きを作ったり、誕生日にはケーキを作り、夏にはかき氷も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事携帯はミキサー食・刻み食・普通食と各個人に合った食事形態で出している 毎回の食事量・水分量のチェックをし1日の必要量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し口腔ケアの指導・チェック・治療をしてもらっている。毎食後職員が口腔ケアを促し、自力で出来ない入居者には介助、また磨き残しは介助にて汚れや臭いが生じないようにしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にドア付トイレがあり、昼夜自分の居室内のトイレを使用している 失禁の多い方・尿意便意のない方はリハパンやオムツ着用になっているが、定時のトイレ移動・声がけ・見守り等を行い、出来るだけ自力での排泄行為を促している	排泄は、各居室のトイレ利用を基本としているが、入浴前は共用のトイレを使用している。身体状態が低下したオムツ使用者も、車いすに座る前や就寝前にはトイレでの排泄支援を職員に促している。排泄チェック表を活用し、失敗の軽減等にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給・食物繊維・医療との連携による整腸剤や便秘薬の調整をし定期的な排便を即している。また午前午後と体操をし身体を動かすようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず声がけにより2日に1回の入浴を実施。失禁の場合は「身体をきれいにしようか？」と失禁を気に病まない様な声がけでシャワー浴・入浴を実施	2日に1回の入浴とし、入浴を拒みがちな方には、管理者が声掛けや歌を聞かせて、浴室に誘導している。排泄失敗時にはシャワー浴を行い、清潔を保ち、褥瘡予防に配慮している。季節感を味わう柚子湯の提供や、冬場には肌がしっとりする入浴剤を使用している。比較的長湯を好む利用者が多く、特に長湯の利用者は順番を最後に行っている。	

事業所名 : グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように1日にメリハリを持って過ごしてもらっている。運動やレクをし心地よい疲労感を持って眠れる様に支援、就寝時の声がけは行うが本人次第になっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の医師や訪問看護師、薬局の薬剤師の指導のもと職員間で薬情を情報共有し周知している。また服薬は朝・昼・夕・就寝前と薬箱を用意しケースに収納し服薬したか職員がチェックできる体制を整えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のフェイスシートや聞き取りで趣味趣向を聞いておりレクや日々の過ごし方に取り入れている。また役割を持たせ張り合いのある暮らしが出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で奥州市に多数の感染者、クラスターが発生したため、昨年同様戸外の外出は控えています。施設内・近隣への散歩・ベランダでのひなたぼっこ・降りないでドライブだけのレク等をしています	「降りないドライブ」として、水沢公園、水沢競馬場、胆沢の桜街道など、近隣の名所に出かけ、お花見を楽しんだり、秋には紅葉狩りにも出かけている。天気の良い日は、3、4人で近隣の温泉施設「さくらの湯」まで散歩に出かけ、敷地内のバラ園の見学や、ピザ窯で焼いたピザを購入しながら、おやつを楽しんでいる。コロナ禍とチルド食品導入で、以前の様な買い物への同伴外出は行っていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や盗難の心配があるので施設ではお金を預かっていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望がある方、家族に会いたがっている方には家族に電話したりタブレットでネット面会してもらっている。手紙は来ても誰からかわからず捨てようとしていたりする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日差しがふりそそぐ広い空間を保ち、壁には季節ごとのディスプレイをし精神的にゆったり過ごせるような環境にある。ソファも座りごちの良いソファが2つありTVやビデオを観たりカラオケを聞いたりくつろぎの空間になっている	ホール内には、季節に応じて装飾品を変え、利用者が作った作品など展示している。通信カラオケが設置され、ゆったりと寛げるようなソファも置かれ、思い思いの場所で過ごせるようにしている。調査前月の12月には、レース付のクリスマスツリーがホールに飾られ、ホール内だけでなく玄関入口から下駄箱までリースやサンタクロース等が飾られていたとしている。テレビ側の壁には、書初めの作品を展示していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは一人で過ごせるスペース・会話スペース等シーンに対応した居場所スペースが作れる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いし、家族写真(遺影)・旅行写真等を飾ったり、使い慣れた家具やお気に入りの置き物を置いたりし居心地の良い空間を作っている	各居室に個室トイレ(洗面台付)、エアコン、利用者に応じて低床ベッドや介護ベッドが設置されている。一人一人使い慣れたダンスやハンガーラック、家族写真や置物、加湿器、プレゼント品等を持ち込み、思い思いの居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は廊下からでもわかるよう名札を立体化、居室の入り口にはお花の絵、本人が作った工作を飾っている。台所からホール全体が見渡せ見守りが出来る		